



でああなたの手元に届くwebマガジン

おばこ稲作情報



2025年3月
No.6 0
JA秋田おばこ



復田での作業留意点

J Aでは水田フル活用による生産者所得確保のため、調整水田や保全管理ほ場で復田できるところへの水稻作付けをお願いします。ただし、長年作物が栽培されていない復田ほ場での作業留意点があります。豊作の秋を迎えるためにも本資料をご確認いただき導入できる技術は積極的に実践してください。



畦畔補修 (畦ぬり)

長年、作物を作付けしてないほ場では、耕盤が無かったり、畦畔が崩れていたりして水を保つ力が弱くなっています。水稻栽培ですので「水」が要です。保水力を高める対策を施しましょう。



漏水対策とし「ベントナイト」を約152.5kg/m²散布後、土と混ぜながら畦ぬりすることで効果大！

天地返し

「自己保全管理」ほ場で雑草が繁茂している場合、地表面に残っている雑草種子や株根などが多くあり、耕起代か

均平作業

ほ場の均平は復田に限らず重要ですが、特に今回対象としているほ場では均平が取れていない状態となっています。肥料、除草剤効果の均一化、安定化を図るため、より丁寧に作業を進めてください。

田面がデコボコだと

水かかりが不均一
肥料ムラ出やすい
除草剤拡散しない
生育ムラ出やすい
↓
収量・品質不安定



土づくり

これまで稲わら等のすき込みがないため「ケイ酸」が不足しています。イネは「ケイ酸」を10アールあたり100キロ以上吸収しますので、復田の場合は「ケイカル」等を必ず投入してください。

ケイカル 120kg/10a以上



施肥量

以前までの転作内容やこれからの作付け品種によって減肥が必要で、一発ロング肥料ではなく、速効性肥料を主体として追肥での調整が必要です。

例えば



施肥量は次ページへ

復田の種類別作付け留意点

種類	自己保全管理		調整水田		大豆後	
	雑草有	雑草無	雑草有	雑草無	反収300kg (高地力)	反収150kg (低地力)
以前の様子	雑草有	雑草無	雑草有	雑草無	反収300kg (高地力)	反収150kg (低地力)
実施作業	畦畔補修	畦畔補修	畦畔補修	畦畔補修	畦畔補修	畦畔補修
	天地返し				天地返し	
	均平作業	天地返し			天地返し	
ケイ酸	100~200kg/10a		100kg/10a		60~ 100kg/10a	100kg/10a
基肥減肥 目安量	30~70%減肥		20~50%減肥		80%減~無肥料	60~80%減肥

※施肥量は土質、地力に応じて加減してください。

ほかにも留意するべきこと18選！

耕起	固く締まった土をほぐし、雑草等を埋没。耕盤が抜けてる場合は深く起こさない(12cm程度)。
入水	下層の孔隙(すき間)まで入水するため、入水量は通常の1.5~2.0倍必要。
畦畔際の踏固め (床締)	入水後、減水・漏水が激しい場合、畦畔際をトラクタータイヤの踏圧で床締。
代かき (1回目)	均平、雑草埋没、水持ち良化(除草剤の効果に影響)。ただし「練りすぎない」
代かき (2回目)	ヒタヒタよりやや多く水を張り土中に水を含ませる(水が少ないとタイヤ跡が残る)。
代掻後	漏水箇所の有無・水持ちを確認。畦畔補修でよいのか、代かき(3回目)が必要か判断する。
田植えまでの 日数	砂質・黒ボク・泥炭土は土が固まりやすいため代掻き後1~2日程度で実施。
田植え時	車輪跡、植付け穴が戻りにくい時は完全落水しないで薄く水を張り田植えする。
田植え	植付本数、栽植密度 3~4本/70株、4~5本/60株、5~6本/50株。ただし、密苗は1本増しとする。
除草剤	初期+初中期一発が基本、水持ちが悪く残草が見える場合、中後期剤を使用する。
生育初期~中期	異常還元(ワキ)が見られる場合は飽水管理を実施し「畑のカルシウム」20kg/10aを施用。
中間追肥	葉色淡く生育遅延の場合「過リン酸石灰」20kg/10a+「硫酸」5kg/10aの追肥が有効(部分施肥可)。
深水管理	初期分けつ発生が遅れるため、深水管理実施で後発分けつを有効茎化。ただし、遅くとも7月上旬には終えること。
中干し	葉色濃く軟弱な稲姿で経過するため、早めの中干し開始とする。葉色の推移を確認。
穂肥	生育・栄養診断と土壌により加減、倒伏軽減剤の使用も考慮(散布時期注意)。
幼穂形成期~ 出穂の水管理	間断かん水、飽水管理。開花期は湛水を基本とするが、異常高温時は飽水管理で地温を下げる。
登熟期	間断かん水、飽水管理で根と茎の活力維持し登熟の向上。
落水	地力で登熟させるため、早期落水は減収のもと(出穂後30日以上、可能な限り遅くする)。